



架け橋

第9号

(令和2年11月2日発行)

ホームページ: <http://mihashi-j.saitama-city.ed.jp/>

E-mail: mihashi-j@saitama-city.ed.jp

学校教育目標 : ゆたかに・かしこく・たくましく

生徒一人ひとりが輝く学校を目指して ～いじめをしない、させない、見逃さない～

校長 井山 直之

11月1日は三橋中学校の開校記念日でした。本校は今年で74周年となります。皆さんは、さいたま市の中でも長い伝統と歴史のある学校の一員です。誇りをもって有意義な学校生活を送ってほしいと思います。さて、令和2年もあと2ヵ月足らずとなりました。冬支度を整え風邪をひかないようにするとともに、インフルエンザや新型コロナウイルス感染症対策に十分に留意し、元気に過ごしましょう。

10月31日(土)に行われた「合唱コンクール」は、様々な制約のある中での実施でしたが、どのクラスも心を一つに大変素晴らしい合唱を聴かせてくれました。また各学年ともに、現時点でもてる力を精一杯出し切ってくれた合唱だったと思います。その中で特に3年生の合唱は、誇りと自信に満ちた素晴らしい歌声でした。最上級生としての自覚と一人ひとりの努力、そしてクラスとしての一体感がとてもよかったです。1, 2年生は直接聴くことはできませんでしたが、3年生の立派な姿を良きお手本として、三橋中学校の合唱の伝統をしっかりと受け継いでほしいと思います。

ところで、毎年6月と11月が三橋中学校における「いじめ撲滅強化月間」ですが、今年度は全さいたま市立学校において、年間を通じて「いじめ撲滅強化月間」とされています。さいたま市が、例年いじめの認知件数増加が見られる6月を、「いじめ撲滅強化月間」としてから今年で9年目を迎えます。いじめ問題への対応をより一層進めるために、国が「いじめ防止対策推進法」を制定してから7年になります。しかし、残念ながら「いじめの問題は根絶されていない、いじめを原因とした重大事態もなくなっていない」と思います。もう一度、「いじめ」を皆さん一人ひとりの問題として考え、みんなで力を合わせて真剣に根絶を目指して行動しましょう。

いじめは、人としてやってはいけないことであることを皆さん分かっていると思います。このことから「いじめられている人にも問題がある」という考えは根本的に誤っており、その考え方ではいじめの問題は解決しません。また、いじめはいじめられている生徒といじめている生徒だけの問題ではなく、その他に周りではやし立てる生徒や見て見ぬふりをする生徒の存在が大きく影響します。つまり、直接いじめに関わっていない生徒が、いじめを積極的になくそうと行動しないと、なかなかいじめの問題は解決しないということです。一人ひとりの生徒が、自分はいじめをしていないということだけでなく、いじめを助長する立場に立っていないか考えてみる必要があります。また、いじめはどの子どもにも、どの学校でも起こりうるということを忘れてはいけません。三橋中学校においても、いじめの問題は自校の課題であると認識し、教職員の共通理解のもとその解決に全力で取り組んでいます。しかし、本校においてもいじめを根絶できていないと校長として認識しています。いじめをなくすためには、生徒の皆さんのいじめを許さないという強い自覚と行動が不可欠です。多くの人が行動しなければ、いじめは根絶できません。「いじめをしない、させない、見逃さない」を合言葉に、三橋中生一人ひとりの勇気ある行動を期待しています。先生方と力を合わせて「いじめ0」を実現しましょう。下の段には今年度リモートで行われた「さいたま市子ども会議」で出された、いじめ撲滅に向けた具体的な行動一覧です。参考にしてほしいと思います。

再度、校長先生からのお願いです。もし、いじめを含め「悩み」を抱えて困っている人がいたら、あなたの周囲には相談できる人がたくさんいることをもう一度思い出してください。相談するだけで気持ちが楽になり、前向きに考えることができるようになりますことがあります。大人も周りの人に相談しながらみんな生きています。一人で悩まずに必ず相談してください。

令和2年度「さいたま市子ども会議」意見一覧【具体的な行動】

- ・児童会・生徒会・委員会・学級委員との連携
- ・あいさつをしっかりとしやすい環境づくり
- ・間違えても良いというクラスの雰囲気を作る
- ・大人や先生に相談する
- ・良好な人間関係を築く
- ・常日頃からいじめを連想させない雰囲気作りを学校全体で行う
- ・視野を広げて生活する
- ・一人ひとりの意見を聞く姿勢を大切に
- ・見て見ぬふりをしない
- ・キャンペーンを実施する
- ・メリハリをつけた生活をする
- ・コミュニケーションを大切にする